

* * *

学 会 記 事

* * *

§ 平成 16 (2004) 年第 2 回日本核医学会
理事会議事録

日時：平成 16 (2004) 年 4 月 22 日 (木)

12 時 00 分 ~ 16 時 15 分

場所：大阪国際交流センター 3 階 会議室 1

出席：

理事長：利波紀久

会 長：西村恒彦

理 事：油野民雄，伊藤健吾，井上登美夫，
宇野公一，尾川浩一，久保敦司，小泉
潔，阪原晴海，佐治英郎，宍戸文男，
玉木長良，竹田 寛，中川原讓二，
本田憲業

監 事：日下部きよ子，中條政敬

春季合同セミナー会長：吉田祥二

次期合同セミナー会長：今枝孟義

幹事長：中嶋憲一

日本核医学会事務局：神田正子

欠席：大鈴文孝，福永仁夫，各理事

議題

I. 審議事項

1. 総会会長の選考について
2. 日本核医学技術学会からの提案事項について
3. 第 13 回実践セミナー大会長について
4. PET 核医学認定医について
(油野民雄理事)
5. Molecular Imaging 研究会について
(佐治英郎理事)
6. ㈱千代田テクノルによる研究開発テーマの
募集について
7. 日本医学会役員選出について

II. 報告事項

1. 第 44 回総会状況報告 (西村恒彦会長)
2. 第 45 回総会準備状況報告
(日下部きよ子次期会長)
3. 第 4 回春季合同セミナー状況報告
(吉田祥二大会長)
4. 第 5 回春季合同セミナー準備状況報告
(今枝孟義次期大会長)
5. 第 10 回実践セミナー報告
(福永仁夫理事)
- 第 11 回実践セミナー準備状況報告
(伊藤健吾理事)
- 第 12 回実践セミナー準備状況報告
(宍戸文男理事)
6. 会計報告 (平成 15 年 12 月 ~ 平成 16 年 3 月)
(久保敦司理事)
7. 委員会報告
 - 1) 編集委員会 (玉木長良理事)
 - 2) 教育・専門医審査委員会
(油野民雄理事)
 - 3) 健保委員会 (久保敦司理事)
 - 4) 広報委員会 (尾川浩一理事)
 - 5) 法人化対応委員会 (本田憲業理事)
 - 6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)
 - 7) リスクマネジメント委員会
(竹田寛理事)
 - 8) 放射線防護委員会 (竹田寛理事)
 - 9) PET 核医学委員会 (伊藤健吾理事)
 - 10) 倫理検討委員会 (井上登美夫理事)
 - 11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成
委員会 (久保敦司理事)
8. ワーキンググループ (伊藤健吾理事)
9. 分科会活動
 - 1) 腫瘍・免疫核医学研究会 (阪原晴海理事)

- 2) 日本脳神経核医学研究会 (中川原譲二理事)
- 3) 日本心臓核医学会 (大鈴文孝理事)
- 4) 呼吸器核医学研究会 (井上登美夫理事)
10. 世界核医学会 (西村恒彦会長)
11. 米国核医学会 (玉木長良理事)
12. アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務) (阪原晴海理事)
13. 日韓中核医学会 (小泉潔理事)
14. その他
 - ・日本専門医認定制機構第2回総会出席の報告 (小泉潔理事)
 - ・治療推進研究事業における治験候補薬の推薦依頼および研究課題の募集について (小泉潔理事)

III. 確認事項

1. 前回議事録(案)②
2. 次回理事会

I. 審議事項

1. 総会会長の選考について
第46,47回核医学会総会会長の推薦を評議員に郵送でお願いし,9月の理事会で決定することにした。
2. 日本核医学技術学会からの提案事項について(資料)
 - (1) 核医学専門技師の日本核医学会との共同認定:核医学から庶務担当小泉潔,本田憲業理事と中嶋憲一幹事長の3名が担当となって検討を進める。
 - (2) 日本核医学会と核医学技術学会の共同開催:共同開催の方向で,早ければ2006年,遅くとも2007年の共同開催を目指すことで合意を得た。
 - (3) 放射性医薬品の調剤の担当者について:薬剤師の放射性医薬品調整の可能性と,技師による調整の両者の可能性を含めて,小泉潔,本田憲業,佐治英郎理事と中嶋憲一幹事長が担当となって検討を進める。

3. 第13回実践セミナー大会長について
2005年5-7月に開催予定で油野民雄理事にお願いすることになった。

4. PET核医学認定医について(資料) (油野民雄理事)

竹田寛,油野民雄各理事よりPET認定医に関する考え方について資料に基づいて説明があった。本認定医はFDG-PETの保険診療のための施設基準として,本学会によるPET核医学認定医の認証が必要であるとの認識に基づくものである。原案の要旨は,(1)核医学専門医の場合は講習で認定医の資格が授与される,(2)一定期間の教育機関の研修を受けた者は認定医試験を受ける,(3)放射線科専門医は一定の研修後認定医試験を受ける(暫定措置),とするというものである。

核医学専門医との整合性が論議されたが,PET核医学も核医学専門医に含まれるとの意見がある一方では,できる限り核医学以外の分野の人にもPET診療に携わる門戸を開くべきとする考え方がある。また,核医学の管理を中心とした安全で適正な取り扱いを核医学が担うべきとする要請がある。

本認定医の研修,試験およびその後の教育に関する基本的な流れについて,以下の点が討議された。

- (1) PET認定医制度を早い時期に開始すること
 - (2) 日本核医学会が認定するPET研修が必要であること
 - (3) 認定のため所定の資格試験を行うこと
 - (4) 核医学会の会員であること
 - (5) 認定後の研修継続の必要性
- 今後の具体的な検討課題としては
- 認定医試験の資格と対象をどのように行うか
 - 核医学会の会員である必要性和その必要期間をどうするか
 - 核医学専門医はPETに関する試験を受けるかどうか(核医学専門医はすでに放射性同

位元素の基礎を知っており、かつ認定医の上にあるため、メリットがあるべきではないかとの意見が出された)

—放射線科専門医はPETに関する認定医試験を受ける必要があるか、核医学会の会員である必要があるか

—他領域の専門医の場合は、講習と認定医試験で良いか

これらの点を、次回の理事会までに再検討して、総会までに方針を整理することになった。

5. Molecular Imaging 研究会について(資料)
(佐治英郎理事)

第1回研究会を11月6日に開催し、日本核医学会が協賛することになった。

6. (株)千代田テクノルによる研究開発テーマの募集について(資料)

利波紀久理事長より、Y-90の研究開発に関して無償提供の依頼があり、核医学会会員を対象に機関誌に案内を広告として掲載することが報告、承認された。

7. 日本医学会役員選出について(資料)

日本医学会の評議員として日下部きよ子理事、連絡員として福永仁夫理事、用語委員として中村佳代子氏、代理として本田憲業理事があたることが了承された。

II. 報告事項

1. 第44回総会状況報告(資料)

(西村恒彦会長)

シンポジウム、抄録とプログラム、演題募集、刊行物、分科会などの進捗状況について報告があった。核医学をとりまく諸問題として、包括化、リスク管理、放射性医薬品の問題などが扱われる予定である。

2. 第45回総会準備状況報告

(日下部きよ子次期会長)

2005年11月11-13日、江戸川区タワーホール船堀で開催予定であることが報告された。

3. 第4回春季合同セミナー状況報告

(吉田祥二大会長)

今期セミナーに関する報告があった。事前登録により初心者98名、専門医38名、PET190名の登録があった。

4. 第5回春季合同セミナー準備状況報告

(今枝孟義次期大会長)

2005年5月27-29日に名古屋国際会議場で予定されており、進捗状況が報告された。事前登録制にする予定である。

5. 実践セミナーに関する報告

・第10回実践セミナー報告(資料)

(福永仁夫理事)

資料のとおり報告された。

・第11回実践セミナー準備状況報告(資料)

(伊藤健吾理事)

2004年7月3日に愛知県医師会館で開催予定である。

・第12回実践セミナー準備状況報告

(穴戸文男理事)

次回予定が報告された。

6. 会計報告：平成15(2003)年12月～平成16(2004)年3月(資料)

(久保敦司理事)

研究成果公開促進費として科学研究費補助金の交付(560万円)が内定した。また、データベースに関しても科学研究費補助金(290万円)が内定した。資料 に従って会計報告がなされ承認された。会費からの収入も順調であることが報告された。

7. 委員会報告

1) 編集委員会(資料) (玉木長良理事)

a) 2004年核医学機関誌最優秀論文賞としてANMの佐々木雅之論文を選考した。

b) 機関誌のon line化に関して、科学研究補助金の一部を充当することが承認された。井上登美夫理事よりon line 査読および管理システムの概要の説明がなされ、申請する方向で準備を進めることになった。従来の査読に関する費用との比較も検討することになった。

- c) 論文経費の削減
別刷りの費用，超過ページに関して，国外の投稿者にも費用を請求する方針で具体化する．ANM 投稿も漸増していることが報告された．
- 2) 教育・専門医審査委員会(資料)
(油野民雄理事)
第 67 回，第 68 回日本核医学会教育・専門医審査委員会の報告があった．専門医審査に関しては医師以外の委員はオブザーバ参加とすること，PET サマーセミナーの点数は 3 点から 5 点に変更することが承認された．試験問題の最終選考が終了した．試験問題解説集の作成と販売について報告された．
- 3) 健保委員会 (久保敦司理事)
診療報酬の改定があり，I-131 内用療法が包括医療からはずれ管理料として認められたことが報告された．
利波紀久理事長より，日本アイソトープ協会主催で，9 月 12 日に甲状腺機能亢進症の治療に関するシンポジウムを計画しているとの報告があった．
- 4) 広報委員会(資料) (尾川浩一理事)
ホームページに求人情報を掲載することを可能にしたいとの説明があり了承された．研究公募の情報も，広報委員会あるいは事務局で判断し掲載することが了承された．
画像データベース作成のための一時的な委員会を組織すること，および初めの 1-2 回の会議のための交通費の支給が認められた．過去の雑誌のコンテンツや教育講演などのライブラリーも作成可能となることが説明された．
- 5) 法人化対応委員会(資料)
(本田憲業理事)
社団法人日本核医学会定款のうち，監事に関する記載(第 13, 16, 21 条)を変更した．会員外の監事 1 名を選任することが承認された．
- 6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)
特に報告なし．
- 7) リスクマネージメント委員会
(竹田寛理事)
前委員会でもとめたリスクマネージメントに関する報告の別刷りを作成した．
- 8) 放射線防護委員会(資料)
(竹田寛理事)
被曝リスクに関して講演会や検討を進めていることが報告された．
- 9) PET 核医学委員会(資料)
(伊藤健吾理事)
3 月 19 日の委員会で PET 認定医に関する議論を行ったことが報告された．
F-18 FDG PET ガイドラインの改正点について資料 により説明がなされた．
保険診療のための施設基準について検討中であり，被曝管理に関する項目も追加した．厚労省からも安全，被曝管理の必要性に関して検討するように指摘されている状況が説明された．宇野公一理事より PET 検診ガイドラインについて検討が進められていることが報告された．PET サマーセミナーの核医学会との関わりについては検討を継続することになった．
- 10) 倫理検討委員会 (井上登美夫理事)
なし
- 11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会
(久保敦司理事)
新薬開発と治験に対応するためガイドラインを作成し，平成 13 (2001) 年 12 月に厚労省審査課に提出した．現在内容について検討中で近々回答がある予定である旨報告された．
8. ワーキンググループ(資料)
(伊藤健吾理事)
WG 規約の改正案について説明された．
9. 分科会活動
- 1) 腫瘍・免疫核医学研究会(阪原晴海理事)
次回以降の予定が報告された．

- 2) 日本脳神経核医学研究会
(中川原譲二理事)

次回以降の予定が報告された。

- 3) 日本心臓核医学会 (大鈴木孝理事)
西村恒彦会長より、会員の学会会員規約を改定したこと(資格として日本循環器学会または核医学の一方の会員であれば良い)、理事が追加されたこと、今後の会の予定が報告された。

- 4) 呼吸器核医学研究会(別紙資料)
(井上登美夫理事)

次回の予定が報告された。

10. 世界核医学会(資料) (西村恒彦会長)
世界核医学会の恒久的事務局設定については必要性を感じている理事は少ないことが報告され、対応を協議することになった。

11. 米国核医学会 (玉木長良理事)
次回米国核医学会では呼吸器核医学について扱う予定である。

12. アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務)
(阪原晴海理事)
学会誌の折り込みでの案内とホームページへの掲載を行った。

13. 日韓中核医学会(資料) (小泉潔理事)
第2回日韓中核医学会の概要が報告された。

14. その他
- ・日本専門医認定制機構第2回総会出席の報告(資料) (小泉潔理事)
日本核医学会は区分 III の多領域に横断的に関連する学会と分類されたが、基本領域あるいはサブスペシャル領域の資格を取得している必要があり異議を唱えてきたことが説明された。
 - ・治療推進研究事業における治験候補薬の推薦依頼および研究課題の募集について(資料) (小泉潔理事)
治験推進事業の候補募集、研究課題の募集について説明された。
 - ・文部科学省より障害防止法に関する意見を聞きたいとの問い合わせがあり、核医学会からも4月27日に利波紀久、久保敦司、日下部きよ子、

竹田寛、小泉潔、各理事が出席する予定であることが、理事長より報告された。

III. 確認事項

1. 前回議事録(案)(資料②)
確認が行われ承認された。
2. 次回理事会は、9月27日に開催される予定である。

§平成16(2004)年第3回日本核医学会 理事会議事録

日時：平成16(2004)年8月30日(木)

12時00分～16時15分

場所：ルビーホール 橘の間

出席：

理事長：利波紀久

会長：西村恒彦

理事：油野民雄、伊藤健吾、尾川浩一、久保敦司、小泉 潔、阪原晴海、佐治英郎、穴戸文男、玉木長良、中川原譲二

監事：日下部きよ子

幹事長：中嶋憲一

日本核医学会事務局：神田正子

欠席：大鈴木孝、井上登美夫、竹田 寛、宇野公一、本田憲業、福永仁夫、中條政敬、今枝孟義

議題

I. 審議事項

1. 次々期会長について
2. 次々々期会長アンケートについて
3. 学会賞・研究奨励賞について
(穴戸文男理事)
4. 名誉会員、功労会員の推薦について
5. 中間法人設立について (小泉潔理事)
6. 核医学技術学会との連携について
(小泉潔理事)

7. 日本放射線技術学会とのデジタルファントム共同企画の提案について (尾川浩一理事)
8. 平成 16 年度ワーキンググループについて (伊藤健吾理事)
9. PET 核医学認定医について (油野民雄理事)
10. 世界核医学会中間会議 (北京) について
11. 会員名簿作成について (小泉潔理事)
12. 第 6 回春季合同セミナーについて
13. 第 14 回実践セミナーについて
14. 日韓中核医学協会連絡会議 (日本アイソトープ協会) について
15. その他
 - ・ 評議員の義務について (久保敦司理事)
 - ・ 厚生労働省への要望書について
 - ・ オーストラリアのシンポジウムへの協賛

II. 報告事項

1. 第 44 回総会状況報告 (西村恒彦会長)
2. 第 45 回総会準備状況報告 (日下部きよ子次期会長)
3. 第 5 回春季合同セミナー準備状況報告 (今枝孟義大会長)
4. 第 11 回実践セミナー報告 (伊藤健吾理事)
第 12 回実践セミナー準備状況報告 (穴戸文男理事)
第 13 回実践セミナー準備状況報告 (油野民雄理事)
5. 会計報告 (平成 16 年 4 月 ~ 平成 16 年 7 月) (久保敦司理事)
6. 委員会報告
 - 1) 編集委員会 (玉木長良理事)
 - 2) 教育・専門医審査委員会 (油野民雄理事)
 - 3) 健保委員会 (久保敦司理事)
 - 4) 広報委員会 (尾川浩一理事)
 - 5) 法人化対応委員会 (小泉潔理事)
 - 6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)
 - 7) リスクマネジメント委員会²¹⁾ (竹田寛理事)

- 8) 放射線防護委員会 (竹田寛理事)
- 9) PET 核医学委員会²²⁾ (伊藤健吾理事)
- 10) 倫理検討委員会 (井上登美夫理事)
- 11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (久保敦司理事)
7. ワーキンググループ (伊藤健吾理事)
8. 分科会活動
 - 1) 腫瘍・免疫核医学研究会 (阪原晴海理事)
 - 2) 日本脳神経核医学研究会 (中川原譲二理事)
 - 3) 日本心臓核医学会 (利波紀久理事長)
 - 4) 呼吸器核医学研究会 (井上登美夫理事)
9. 世界核医学会 (西村恒彦会長)
10. 米国核医学会 (玉木長良理事)
11. アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務) (阪原晴海理事)
12. 日韓中核医学会 (小泉潔理事)
13. その他

- ・ 日本専門医認定機構 出席の報告²³⁾ (小泉潔理事)
- ・ 甲状腺 I-131 内用療法シンポジウム²⁴⁾ (利波紀久理事長)
- ・ 放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用運営委員会委員委嘱²⁵⁾

III. 確認事項

1. 前回議事録 (案)²⁶⁾
2. 次回理事会

I. 審議事項

1. 次々期 (第 46 回) 会長について (資料) (西村恒彦会長)
評議員推薦アンケートでは、現評議員 179 名中、投票数 86 票 (投票率 48%) があり、中條政敬、米倉義晴、遠藤敬吾の三氏が上位であった。投票の結果、中條政敬氏が選出された。
2. 次々々期 (第 47 回) 会長アンケートについて
会長候補につきアンケートを行い (10 月 22 日に締め切り)、次回核医学会総会の理事会までに決定する。その後の会長については立候補に

- より選考するのはいかががとの提案があった。
3. 学会賞・研究奨励賞について(資料)

(穴戸文男理事)

日本核医学会賞応募3名の中から、鳥塚達郎氏が選出された。

研究奨励賞応募9名の中から伊藤 浩，河村和紀，張 宏の三氏を選出し，名前はアルファベット順で発表する。学会賞の受賞者を研究奨励賞の対象とするのは不相当との意見があり今後検討する。日本核医学会賞について学会の会員歴については5年とされているがこの点も今後どうするか検討する。応募の際に核医学会専門医であることを記載する欄をもうけるとよいとの意見が出された。

4. 名誉会員，功労会員の推薦について(資料)

名誉会員として油井信春氏，功労会員として70歳以上の7名を推薦した。

5. 中間法人設立について(資料)

(小泉潔理事)

法人化については社団法人をめざして文科省と折衝中であるが，会員の8割が医師であるとの要件を満たしていない。そこで，日本核医学会を親学会として医師の会員のみを分離し，子学会として中間法人格を取得することを検討中である。その移行のステップについて小泉理事より説明がなされた。

野村憲弘弁護士より中間法人に関する説明がなされた。この結果，核医学会として定款を作成し(別添資料に仮案)，総会で承認を得ること，この際に中間法人の主たる目的は専門医認定に特化すること，正会員は医師とするが役員は正会員でなくても良いことを確認した。

6. 核医学技術学会との連携について(資料)

(小泉潔理事)

核医学専門技術者の共同認定については日本核医学技術学会，日本放射線技術学会，日本核医学会，日本放射線技師会の3学会1団体によって共同認定協議会を設け討議をすることになった。核医学会からは本協議会の会員として小泉潔，本田憲業，両理事があたることになった。

学術大会の合同開催については，各会長の地域が離れていても可能とするシステム作りが求められる。また，経費負担の分担も課題となるため今後も検討を進める。

7. 日本放射線技術学会とのデジタルファントム共同企画の提案について(資料)

(尾川浩一理事)

日本核医学会と放射線技術学会の共同企画として，SPECT，PETの品質管理のためのデジタルファントムを作りたいとの提案があった。核医学内の平成16年(2004)度の特別企画の共同ワーキンググループとして進めることになった。

8. 平成16年度ワーキンググループについて(資料)

(伊藤健吾理事)

2課題のワーキンググループとしての応募があった。小須田茂代表による包括医療に関するテーマは継続で，藤井博史代表のFDG PET適正利用に関するテーマは新規で採用となった。

9. PET核医学認定医制度について(資料)

(油野民雄理事)

PET認定医の委員会案を元に，認定医試験を免除する専門医資格について修正案を検討した。日本医学放射線学会専門医および日本核医学会が認めた他学会専門医は受験を免除とする修正第2案を採用した。PET講習会は重要な教育の機会として位置づけることが確認された。

10. 世界核医学会中間会議(北京)について(資料)

利波理事長より，世界核医学会の恒常的事務局の設置およびpresidentとchairmanの分離に関連して，Myung Chul Lee氏(Seoul National University)を含めた会合の経緯が報告された。AOCNMB(北京)で開催される会合に阪原理事が出席し，次回の世界核医学会の候補となる国を選出する予定である。日本核医学会としては南アフリカを推薦することにした。世界核医学会のoffice，executive directorをおくかどうかについては意見の一致が見られず留保する。発展途上国の核医学レベルの向上に尽力することで

は意見が一致した。

11. 会員名簿作成について(資料)
(小泉潔理事)
平成 17 (2005) 年度の名簿作成を進めているが、記載項目、必須項目をどうするかについて討議された。所属機関、メールなどに関する情報は、希望しない場合にはチェックできる項目を作る。専門分野、他学会の専門医、業務内容を示す資格などもアンケートとして情報を収集する。これらの点を考慮して、次回理事会までにアンケート案を作る。
12. 第 6 回春季合同セミナーについて
平成 18 (2006) 年春に予定されている。
13. 第 14 回実践セミナーについて
平成 18 (2006) 年秋に予定されている。
14. 日韓中核医学協会連絡会議(日本アイソトープ協会)について(資料)
標記の会議が 2004/11/29-12/5 に予定されており、「日本における核医学の現状と将来展望」について講演の依頼があった。玉木、小泉理事が担当者について 9 月中旬までに検討する。
15. その他
評議員の義務について (久保敦司理事)
学会の活性化を考えて、評議員会出席率を向上させる必要があることが指摘された。
厚生労働省への要望書について(資料)
ミオ MIBG I-123 注射液の褐色細胞腫等への適応追加、およびカーディオライトの副甲状腺診断に関する効能追加を厚労省に、関連学会とともに要望書として提出する。

II. 報告事項

1. 第 44 回総会状況報告(資料)
(西村恒彦会長)
プログラム編成も終了し、一般演題約 550 題でホームページに概要を掲載済みである。プログラム編成の準備と進捗状況について、特別講演、教育講演、シンポジウム、セミナーの概要を含めて説明がなされた。抄録集とプログラム集は分離することにしたが、次回以降は編集委

- 員会でも検討することになった。
2. 第 45 回総会準備状況報告
(日下部きよ子次期会長)
平成 17 (2005) 年 11 月 11-13 日にタワーホール船堀で施行する予定でポスター案とともに紹介された。テーマは「協調の医療にむけて」とする予定である。
3. 第 5 回春季合同セミナー準備状況報告(資料)
利波理事長より資料に基づいて説明がなされた。受講料については検討中である。
4. 第 11 回実践セミナー報告 (伊藤健吾理事)
7/3 愛知県の医師会館で施行され、141 名の出席があった。半数が医師であった。
第 12 回実践セミナー準備状況報告(資料)
(宍戸文男理事)
11/27 に予定されている。プログラムの紹介があった。
第 13 回実践セミナー準備状況報告
(油野民雄理事)
来年の春の時期に予定している。
5. 会計報告(平成 16 年 4 月～平成 16 年 7 月)
(資料) (久保敦司理事)
第 43 回日本核医学会総会の収入、支出に関して報告された。総会開催にあたっては学会がその一部を負担する必要があるという意見が出され、議論の結果、次年(第 45 回日本核医学会総会)より学会から 200 万円援助する予算を組むことが承認された。
6. 委員会報告
 - 1) 編集委員会(資料) (玉木長良理事)
ANM の impact factor は 0.745 に上昇している。投稿状況、総説について説明があった。on line 査読準備についてはヒアリング中であり、作業および費用の削減化についても検討している。
 - 2) 教育・専門医審査委員会(資料)
(油野民雄理事)
本年度専門医試験の合否判定(申請 30 名中 28 名が受験、27 名が合格)、専門医審査、

学術集会申請，専門教育病院審査について報告された。

3) 健保委員会 (久保敦司理事)

日医放の活動に協力して進めている。医療費包括化の動向についても注目し，核医学検査の意義を示していく必要があることが指摘された。

4) 広報委員会(資料) (尾川浩一理事)

ホームページの掲載，電子メール利用による情報提供について説明された。第1回データベース作成委員会を8/25に開催し，12月までに核医学画像データを収集し配布できる方向で進めている。

5) 法人化対応委員会 (小泉潔理事)

現在対応を進めているが，監事のなかに会員以外の人を入れる必要があるため公認会計士の青木恵一氏にお願いし了承された。

6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)

特になし。

7) リスクマネジメント委員会(資料 ㉑)

利波理事長より資料にそって説明があった。アイソトープの誤投与に関する調査を予定している。

8) 放射線防護委員会

特になし。

9) PET 核医学委員会(資料 ㉒)

(伊藤健吾理事)

井上班からFDG-PET検査における安全確保に関するガイドラインが出され，これに対するパブリックコメントが募集された。全般，使用施設基準，廃棄施設の構造設備基準，ハイブリッドカメラ(FDG用コインシデンス対応のシンチカメラ)等の各項に関して意見が出され，厚労省医政局より回答があった。ハイブリッドカメラの利用についてはできるだけ早く利用可能となるよう日本核医学会としても検討中である。また，PET研修セミナーを平成17(2005)年1月頃に予定する。事務局はPET核医学委員会と教育・専門医審査委員会が中心に施行する。

西村会長より現行のPETサマーセミナーについても，核医学会の夏期セミナーのような性格を持たせたらどうかとの意見がでていたとの説明があった。この点はサマーセミナー運営委員会でも検討を進めてもらう。

PET/CTの保険導入，アルツハイマー病に関する高度先進医療での利用について，進行状況が説明された。

10) 倫理検討委員会

特になし。

11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (久保敦司理事)

特になし。

7. ワーキンググループ (伊藤健吾理事)

上記審議事項に記載のとおり。

8. その他

日本専門医認定機構出席の報告(資料 ㉓)

(小泉潔理事)

認定医機構に関する協議委員会の経過説明があった。横断的領域(第III群)に属する核医学としては，基本領域(I群)，サブスペシャル領域(II群)の専門医資格を取得していなくても良いとの見直しがなされていたが，担当理事が交代したため再び議論が逆戻りしており，結論がでない。

甲状腺I-131内用療法シンポジウム(資料 ㉔)

(利波紀久理事長)

9/12に施行されるが，核医学会も共催することになっている。核医学会を代表して利波理事長が副会長を務める。

放射線医学総合研究所重粒子線がん治療装置等共同利用運営委員会委員委嘱(資料 ㉕)

放射線医学総合研究所より標記委員の委嘱があり，竹田，宍戸両理事が担当する。

III. 確認事項

1. 前回議事録(案)(資料 ㉖)が確認された。

2. 次回理事会

11月3日(水)12:30~16:00 宝ヶ池プリンスホテル地下1階「比叡」で予定されている。